



2007年3月1日発行 第177号

発行所 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会 〒160-0005 東京都新宿区愛住町23-1 Woody21-9階 TEL.(03)3356-8217 FAX.(03)3356-8637 発行責任者:品川 保弘 http://www.marow.or.jp/ E-mail:office@marow.or.jp

郵便振替口座 00150-4-15754 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

役員選挙第2回告示

昨年10月23日付の第1回告示が行われた全国協議会の第4回役員選挙は、1月29日の立候補締切までに、別掲の通り推薦理事11名と公募理事9名の合計20名の立候補がありました。これを受け、選挙管理委員会(梅田正造委員長)は、以下の通り2月16日に第2回告示を行いました。

立候補者は推薦理事の有資格者となります。 推薦による理事の有資格者は、5月27日に開催予定の2007年度総会(静岡県静岡市)の議決により次期理事に選任されま

ま骨髄バンク推進連絡協議会、沖縄県骨髄バンクを支援する会(計9団体)による投票で選挙を行います。

3.公募理事の選挙(投票)について 公募理事は定数8名のところ、9名の立候補者がありました。規定により全会員(各加盟団体代表)による投票で選挙を行います。

1.投票を行わない推薦理事について

北海道、東北、関東甲信越、東海北陸、近畿の各ブロックにおける推薦理事の立候補者は定数と同数であり、また中四国ブロックについては定員2名に対し、立候補者が1名であったために、役員選挙規程第11条第2項の定めにより、投票は行わず

2.投票を行う推薦理事について

九州ブロックについては、推薦理事の定数2名のところ、立候補者4名のため、同ブロック内会員(加盟団体代表)・九州骨髄バンク推進連絡協議会、骨髄移植を考る患者家族の会「リボンの会」、九州骨髄バンク推進連絡協議会佐賀県支部、長崎県骨髄バンク推進連絡協議会、熊本骨髄バンク支援会、大分県骨髄バンク推進連絡協議会、みやざき骨髄バンク推進連絡協議会、かごし

4.役員選挙委員会の設置について

会長、副会長、監事につきましては立候補者がありませんでした。また中四国ブロック推薦理事につきましては定員に達しませんでした。よって役員選挙委員会の設置をすべく理事会に

※なお、ホームページでは、候補者のプロフィール、所信も掲載しています。

第4回役員選挙 立候補者一覧

●推薦理事候補者(定数10名)

ブロック	氏名	所属団体名
北海道(1)	島山茂房	北海道骨髄バンク推進協会
東北(1)	橋本正成	岩手県骨髄バンク推進協議会
関東甲信越(2)	松井友子	にいがた・骨髄バンクを育てる会
	村上忠雄	神奈川骨髄移植を考える会
東海北陸(1)	川瀬和子	静岡骨髄バンクを推進する会
近畿(1)	青山順	なら骨髄バンクの会
中四国(2)	高木由紀子	鳥取県骨髄バンクを支援する会
九州(2)	平塚健一郎	長崎県骨髄バンク推進連絡協議会
	織持敏子	九州骨髄バンク推進連絡協議会佐賀県支部
	中村福代	みやざき骨髄バンク推進連絡協議会
	中川里枝子	九州骨髄バンク推進連絡協議会

●公募理事候補者(定数8名) ※届出順

	氏名	居住地
1	小川真理	北海道釧路市
2	遠山将一	千葉県船橋市
3	和泉屋 浩	埼玉県川口市
4	大橋一三	東京都世田谷区
5	菅 早苗	秋田県由利本荘市
6	品川保弘	富山県射水市
7	下村祐三	埼玉県川口市
8	四方田 淳	宮城県仙台市
9	森 修	福岡県八女郡

報告しました。

5.日程

- 第2回告示(投票開始) 2007年2月16日(金)
- *各会員宛て投票用紙等送付
- 投票締切日 2007年3月20日(火)
- *選挙管理委員会必着
- 開票日(第3回選挙管理委員会) 2007年3月25日(日)
- *14時(予定)から公開にて開票作業
- 開票結果の発表 2007年3月26日(月)
- *文書、HP、機関紙等で発表

心からのご寄付に感謝申し上げます

1月20日～2月16日

株式会社サクラホーム	現金	10,000円
岡崎市立甲山中学校生徒会	現金	100,000円
たっくママの投稿募金	現金	5,661円
吉本哲也	現金	1,000円
塩谷 圭	現金	1,000円
高野昇一	現金	10,000円
鈴木純子	現金	1,340円
三瓶和義	現金	2,120円
赤木隆子	現金	10,000円
吉田裕美子	現金	2,000円
池井 元	現金	2,000円
相河祐子	現金	5,000円
赤澤 伸	現金	5,000円
徳田ひろみ	現金	1,620円
飯島孝枝	現金	2,240円
黒岩隆介	現金	2,000円
中西健治	現金	1,000円
匿名	現金	11,500円

●佐藤さち子患者支援基金

山本さかえ	現金	10,000円
池井 元	現金	2,000円
坂爪志乃	現金	3,000円
赤澤梨沙	現金	5,000円
毛利広孝	現金	1,000円

●白血病患者支援基金

ブルデンシャル生命保険株式会社	現金	1,350,000円
-----------------	----	------------

(敬称略)

活動資金の援助をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655 郵便振替口座 00150-4-15754 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会

財団から回答書 プレスリリース関連で

先月号のニュースで、財団が1月16日に行った「術前検診時データの確認不足のため採取中止となった事例」と題するプレスリリースに関連して、全国協議会から財団に質問・要望書を提出したことをご報告しました

が、2月2日付で財団から回答書が寄せられましたので、概要を掲載します。 質問1…直近3例の緊急コーデイネイトが未発表であった理由と経過について 回答…当該の3例は、理事会の前年度事業報告で緊急コーデイネイト実施数を報告することを失念した。情報開示については基準・方法が明確に定められておらず、公表が必要とは認識しなかった。3例とも、危機管理担当理事・担当委員会委員長による審議によって、緊急コーデイネイトの実施が妥当と判断され、理事長の承認を経て対応した。

質問2…過去の事例で再発防止の観点から関係者に情報共有がされていたか 回答…事例5(術前健診時デー

去る2月7日 当協議会陽田秀夫副会長と九州骨髄バンク推進連絡協議会中幸一事務局長が、ノースウエスト航空寺崎豊彦広報部長らと共に学校法人九州女子高等学校を訪問し、ノースウエスト航空エアケア・チャリティ・プログラムによる180万マイルのマイレージの寄贈を受けました。

九州女子高校は今年100周年を迎える伝統ある学校で、昨年を記念して2年生の修学旅行に参加した2年生の生徒さんと先生及び添乗員の合計361名のマイレージが今回、寄贈されることとなり、全国協議会とアフリカ等で教育支援を行う「ハンガー・フリー・ワールド」の2団体が寄付先として選定されました。

財団は、今回の事例を機に、情報開示に関する基準・方法を再検討し「過誤が認められた場合は速やかに公表することとした」とのことです。また、再発防止策の徹底を求める要望に対しては、「今後同様の事案が起らないよう、財団の役員が力を合わせて業務の改善と組織体制の強化を進めてまいり所存です」との表明がされました。

第68回理事会報告

2月21日 全国骨髄バンク推進連絡協議会事務局

1.月会計報告

- 名義後援、承認案件
- 2007年度総会関係
- 2007年度全国大会について
- 2006年度補正予算について
- 15周年事業終了後に寄せられた作品の扱いについて
- NW航空からのチャリティマイル利用について

〈協議事項〉

- 財団が行う請願署名について
- 「白血病と言われたら」進捗状況
- 「白血病と言われたら」進捗状況
- 第4回役員選挙進行状況
- 2008年度全国大会開催地応募状況

〈報告事項〉

- 財団関連
- バイシクルライド2007進捗状況
- 「白血病と言われたら」進捗状況
- 第4回役員選挙進行状況
- 2008年度全国大会開催地応募状況

箱根駅伝・骨髄バンクPRで135万円の寄付

お正月恒例の箱根駅伝骨髄バンクPRに、ブルデンシャル生命の社員の皆様に参加して下さいましたが、さらに参加者全員の日当135万円を白血病患者支援基金に寄付して下さいました。2月5日、ブルデンシャル生命横浜東支社にて、目録を受け取り、お礼の挨拶をし、この活動の目的等を話してきました。熱く優しい社員の皆様により、色んなアイデアもいただき、「また来年も」という気持ちも強くなりました。本当にありがとうございます。

(大橋)

●新宿区主催ハーフマラソン大会での活動報告

●ボランティア・バック運動について

●九州女子高等学校への感謝状贈呈について

●あやちゃん展等予約状況

●ドナーサポート事業

●きこ子基金

●フリーダイヤル

●演劇「クオ・ヴァディス」公演会場での普及啓発

●三菱UFJ信託銀行訪問



札幌 博士のつぎやき

もう何回目になるやら、北海道協会札幌支部では二月上旬の北海道のイベント「さつぽろ雪まつり」に「マロー博士像」を作り続けています。



各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

札幌のあれか、と言ってTV番組のステージにも使われる観光イベントの巨大雪像ではなく、こっちは50年以上前からの歴史ある風物詩を受け継ぐ市民雪像コーナーという区画です。

この中にも、水準器だとかカーブ定規を持ち込んで、仏間や妙なアート作品を作るグループもあります。

札幌のは水準器こそ持ち出さないけれど、三上善博さん職人技のなだ彫りで、雪柱のなかからマロー像が浮かび出します。そこに全体構造やバランスを把握していきたくもできる、細部加工を我々未熟者が受け持つわけです。

もちろん完成祝賀会だけに参加する仲間もいます。(加藤)

空飛ぶ鮭とば、呪文のこま

去る1月28日、第5回新宿シティハーフマラソンで、関連行事である明治公園イベントに、公式協力団体として全国協議会から理事、事務局員に加え、東京の会員等総勢9人がランナーに負けじと元気よく参加しました。

この日、鮭とばは「空飛ぶ鮭とば」となり、こまは「幸せのひらけこま」になりました。(畠山)

持ち込んだのは北海道釧路産の鮭とば、開きコマイをはじめとする珍味類、東京での活動では定番の韓国海苔、蒲田は木村屋の甘納豆などで、このほかチャリティーくじも行い、こちらは小さな子どもたちに大人気の会場の周囲にキティのぼりを



新潟 頼もしい仲間

此の度、エービーエス新潟(株)様より広報車として白いスバルのプレオをご寄付いただきました。今迄の日産マーチと入れ替えになります。結構目立つ「骨髄バンク」のグリーンの大目目のシールを車の両サイドに貼っていますので、動く宣伝カーとしてPR効果は大きいと思っております。よく目立つだけに、しっかりと交通ルールを守り安全運転を心がけないといけないですね。毎月の献血併行登録会や休日登録会等、荷物をいっぱい積み込んで大いに活躍します。新潟の会では、このように多くの皆様からご支援を頂いております。気持ちを新たに頑張っていきます。(小師)



「一緒に」
再発し、治療のため入院するときに通った道の景色を私は忘れられません。もしかしら帰り道はないのかもしれないと思つた瞬間、涙が溢れました。抗がん剤治療、移植を終えて無事退院、今はこんな元気になれました。最近私が思うことは、同じ病気で不安になつてらっしゃる患者さんに、少しで

宮崎 巨人軍キャンプで キャンペーン

去る2月10日、11日、12日の連休に、昨年引き続き読売巨人軍と宮崎県の協力を得て、巨人軍春季キャンプ地であるサンマリスタジアムで、骨髄バンクPR、ドナー登録キャンペーンを開催しました。

天候にも恵まれ多くの見学者で賑わう中、リーフレットやオリジナルのポストカードを配布しました。ステージでは骨髄バンクのPRと登録会の案内をし、本会のジュニア達は募金活動に頑張ってくれました。11日は宮崎県主催の登録会があり、殆ど県外の方でしたが15名の登録者がありました。



も生きる勇気を与えたいということ。治療は大変だけれど、「大丈夫、一緒に頑張ろうね」と伝えてたいです。私は「一緒に」という言葉が好きです。君は一人じゃないというメッセージは、病气や自分の心と向き合い闘っている患者さんにとって、きつとなにより言葉だと思えます。これからも元気で、この「一緒に」のメッセージを伝え続けたい、そう思っています。(☆あずりん)

温まるご協力に感謝です。

韓国テレビ局の取材もありました。日本では「骨髄せき髄」の誤解がある中、韓国では「骨髄」頭からの採取」という誤解があるらしいのです。せき髄も嫌ですけど、頭からの採取というのも恐ろしい誤解ですね。

多くの皆さんの協力があり今回のイベントも無事に終了しました。骨髄バンクは多くの皆さんに支えられているという現実が身にします。3日間のイベントに参加されたみやぎの会のメンバー、そしてボランティアとして参加くださった皆さん！お疲れ様でした。(中村)

帯広 「骨髄バンク10年の流れ」 記念コンサート& シンポジウム

2月10日、帯広市内北海道ホテルにて北海道骨髄バンク推進協会帯広支部(HLA帯広)の創立10周年記念イベント「骨髄バンク10年の流れ」を開催しました。会場には、予想を越える約100名の来場者が詰めかけ、関心の高さや日々のボランティア活動の手応えを実感させられる嬉しい結果となりました。



三愛ウェルファーマ株式会社
http://www.m-pharma.co.jp
創薬力

披露いただいたあと、第二部では旭川赤十字病院の幸田久平先生、全国協議会副会長の陽田秀夫氏、国内非血縁者ドナー第一号の田中重勝氏、国内で初めて非血縁ドナーから骨髄提供を受けた橋本和浩氏、北海道骨髄バンク推進協会の畠山茂房氏の各氏による講演、さらに畠山氏コーディネートのシンポジウムへと続きました。来場者からは「初めて聴いたハープ演奏が素晴らしい」「講演時間が短かった」「今まで知らないたくさんの方がわかった」「もっとこのような機会を増やしてほしい」「みなさんの熱いメッセージに感動した」などの意見が多数寄せられました。(石玉)



今回は大谷会長多忙のため、ピンチランナーとして、骨髄バンクを通じて移植を受けて元気になった元患者、福島志賀としえさんに走っていただきました。

2月14日、土砂降りの雨と強風が吹き荒れる中、「今、生きていくことにありがとう」をテーマに、志賀としえさんのお話を聞くことができました。次々と襲い掛かる病气にも負けず、「笑う門には福来たる」と前向きに生きる姿に、全ての参加者が心を打たれました。以下は生徒の感想の抜粋です。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする 骨髄バンクNOW

●日本骨髄バンクの現状(平成19年1月末現在)

	12月	1月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,651	2,854	271,620	342,756
患者登録者数	192	181	3,373	22,067
骨髄移植例数	65	62	-	8,028

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。

●ドナー登録者27万人、骨髄移植例数8000例
1月末現在のドナー登録者の現在数は、271,620名となり、また1月24日には日本骨髄バンクを介した非血縁者間骨髄移植例数が8,000例を超えました。昨年は949例と過去最高の移植例数となりました。

●平成20年度診療報酬改定に向けての取り組み
財団では、来春の診療報酬改定に向けて、コーディネート期間を短縮し、患者さんの負担を軽減するため、(1)コーディネートに係る情報検索連絡調整費用等の点数加算 (2)移植骨髄穿刺についての加算を要望するという請願内容の署名活動を行うこととなり、関係団体に協力の依頼を行っています。

「あんなふうにきらきらと輝く大人になりたい。」「高校受験でくよくよしている今だけど、苦しみに負けないで生きていこうと思った。」「自分が今ここにいるのは父、母、まわりの皆のおかげ。感謝したい。」
受験真っ只中の生徒たちに、勇気と元気をいただいたひとときでした。「こうすけ君の朝顔」大切に育てたいと思います。あ

リレー紹介 ボランティアの仲間たち

その日、緑川撰生さんの財布には千円札が一枚。目の前には募金活動に励む人がいたが、この千円を使ってしまうたら帰りのタクシー代がなくなる。募金はいらなかった。
しかし、撰生さんはその後ずっと、「それで良かったんだべか？」と悩んだ。
だから、クリスマススイブに地元ラジオ局がやっているチャリティーミュージックソンという24時間番組で、サンタクロースの格好をしてリヤカーを引きながら50キロの道のりを募金を募りつつ歩こうと思った。予想外の大雪で身の危険も感じたが、目の見えない人、体の不自由な

